

令和6年度産大崎地域の 子実とうもろこし情報 (第3号)

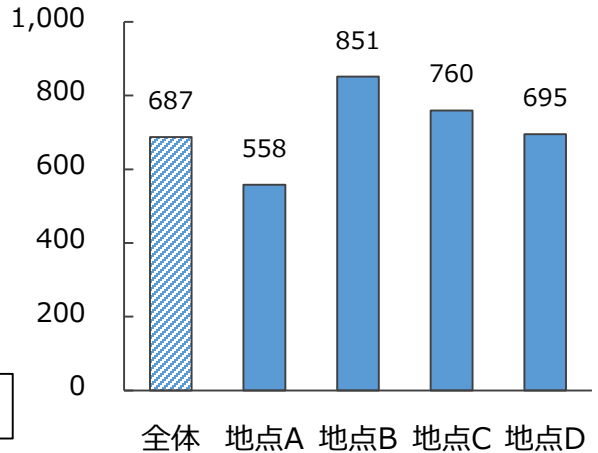
令和6年12月23日発行
大崎農業改良普及センター
TEL:0229-91-0726
<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

◆ 砕土率は苗立ちに影響します！

右図は今年度の普及センターで調査対象とした4地点(地点A~D)とJA古川管内全体(19組織)の平均収量をグラフにしたものです。

今年度は全体で700kg/10a近い収量となり、調査地点Bでは平均を超える約850kg/10aでした。

地点B~Cは平均以上の収量となりましたが、地点Aでは平均以下の収量となりました。



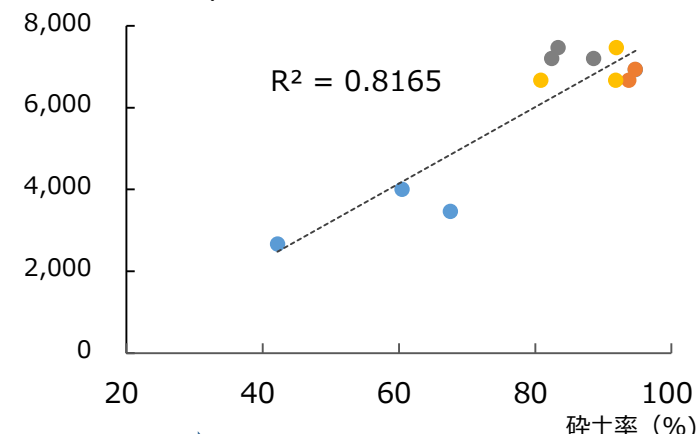
収量の差の原因は…？

地点Aと地点Bでは、収量に約290kgの差が生じました。8月の生育調査では地区間で大きな生育差はありませんでしたが、6月に調査した初期の苗立ち・砕土率に地点間で大きな差が見られました。

砕土率と苗立ちの関係性を見てみると、**砕土率が低ければ苗立ちも少ない**という結果になりました。よって、砕土率が苗立ちに影響し、最終的な収量に影響したと考えられます。

地区	砕土率	苗立ち (本/m)	栽植密度 (本/10a)
A	56.7%	2.4	3,378
B	94.4%	5.3	6,844
C	84.8%	5.1	7,289
D	88.2%	4.9	6,933

栽植密度 (本/10a)



砕土率が低いとどうなるの？

種子が露出
種子と土壌が密着しない

種が乾燥し土壌中の
水分を吸収できない

芽が出ない、出芽の遅れ

砕土率は70%以上確保しましょう！！

麦・大豆と同じ

砕土は、直径2cm以下の土塊が70%以上になるように仕上げましょう。

降雨後の土壌が湿った状態での耕起は、大きな土塊ができるので避けましょう

砕土率80%以上のほ場



砕土率50%程度のほ場



苗立ちの不良は、とうもろこしによる遮蔽効果を低下させ、雑草の繁茂にもつながります！

子実とうもろこしで使える農薬は裏面QRコードから「子実とうもろこし情報第2号」を参照し、さらに最新の農薬情報を確認してください。

◆ 追肥が収量安定につながる！！

S営農生産組合のほ場では、初期生育の不良に悩まされていましたが、6月に追肥をおこなった結果、最終的に800kg/10a以上の収量となりました。

追肥を行った生産組合の平均反収は750kg以上と高く、適期に追肥を行うことで収量アップに繋がったと考えられます。

追肥は適期にしっかりおこないましょう！

【散布時期】

4月播種の場合⇒5月末～6月頭
播種後、約1か月が目安です



ひざ丈までが
プロキヤスが入れる
限界の大きさです
それまでに散布してね



◆ 今一度確認！排水対策はバッチリですか？

とうもろこしは非常に湿害に弱い作物です。ほ場の排水状況は初期の生育に影響し、生育ムラに繋がる可能性があります。栽培前に排水対策はしっかりおこないましょう。



水はけが悪い部分が、その後生育ムラになっています

明渠をつかって排水対策

- ✓ 新規で作付けをする場合は特に、明渠を掘り表面排水を促しましょう。
- ✓ サブソイラによって補助暗渠を施工し、本暗渠までの水路を確保することで、地下排水を確保しましょう
- ✓ 栽培中も明渠の排水ができているか確認することも大切です。

◆ 堆肥散布でよい土づくりを

とうもろこしも多収になれば、土壌の養分を多く必要とするため、堆肥散布による土づくりは必要な作業です。堆肥を活用することで、化学肥料の節減にもつながります。

基本の施肥体系

▽ 牛ふん堆肥の場合

【基肥】	牛ふん堆肥	1,000kg/10a
	化成肥料14-14-14	60kg/10a

【追肥】 尿素 輸入46%(粒) 5~10kg/10a

▽ 鶏ふん堆肥の場合

【基肥】	鶏ふん堆肥	430kg/10a
	化成肥料14-14-14	20kg/10a

【追肥】 尿素 輸入46%(粒) 5~10kg/10a

◆ 播種はいつする？

令和6年は、4月播種でも5月播種でも平均収量が650kg/10a以上でしたが、特に4月播種では800kg/10a以上の反収が得られています。

一方、4月播種をした場合でも刈取りまでの日数が多いほど、収量が少なくなるという傾向もみられましたので、なるべく播種後140日~150日での適期収穫を目指しましょう。

「子実とうもろこし情報」は「大崎農業改良普及センター」のホームページでもご覧いただけます。インターネットで検索または、右のQRコードを読み取ってください。



JA古川子実とうもろこし栽培暦より引用